

スペシャル・セッションのご案内 (1992年度秋季大会)

秋季大会 (10月7～9日, 札幌) で下記2件のスペシャル・セッションが行われます。発表方法は一般の口頭発表 (4月号230ページ参照) と同じです。スペシャル・セッションでの発表を希望する場合は、申込用紙 (4月号末) のキーワード欄に、キーワードに代えてセッション名を記入し、一般講演と同じ要領で講演企画委員会に申し込んで下さい。

講演企画委員会

1. 「航空機による大気水圏観測」

現在、地球上には、気候の温暖化、異常気象、成層圏オゾン層の破壊、酸性雨など多くの環境問題が起こっており、これらを解明する大きな原動力となるのが、航空機による実態究明の観測である。これらの問題と深く関わっているCO₂やCH₄など温室効果気体の増加、雲と放射の相互作用、火山噴火の気候への影響、大気微量成分の動向、水循環、物質循環と輸送、エネルギー輸送、生物圏が環境へ及ぼす役割などを観測するプラットフォームとして、航空機観測は今や不可欠な手段である。我が国の航空機観測を促進するためにも、従来のセッションの枠を越えた、航空機を共通のキーワードとするセッションを設け、航空機観測に関する知識についての情報交換を行い、航空機によって、今後、何をどのように観測すべきかを討論する必要がある。本セッションでは、大気化学、雲と放射、エアロゾル、地表面過程、大気境界層など、幅広い分野における航空機を用いた研究成果を発表し合うと共に、航空機搭載測器の開発、今後の観測計画などについても発表を募り、我が国の航空機観測の今後のあり方を展望したい。

呼びかけ人および連絡先:

〒464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学水圏科学研究所 石坂 隆
〒371 前橋市荒牧町4-2
群馬大学教養部 大和 政彦

2. 「雪」

趣旨: 我国の日本海側の地域は世界有数の豪雪地帯であるので、豪雪災害がたびたび発生している。その予測と軽減・防除の基礎となる研究や降雪を伴う気象擾乱についての研究が今までにたくさん行われてきた。しかし、学会では総観気象、中小規模現象、積雲対流、雲物理など別々のセッションでその成果が発表されてきた。降雪現象を総合的に理解するためには、いろいろな分野の研究者が一堂に集り、異なる角度からの意見を出し合い、議論することが有意義と考えられる。また最近議論されはじめている雪氷と気候との相互作用、その他もろもろの雪に関する研究、新しい観測手法による発表などが加わるというさう意味のある研究発表の場となるであろう。更にここ数年、日本各地で行われてきた降雪特別集中観測の成果発表も期待されるので時宜にかなっている。

呼びかけ人

播磨屋敏生 (北海道大学・理学部)
松尾 敬世 (気象研究所・物理気象研究部)
永田 雅 (気象研究所・予報研究部)
藤吉 康志 (名古屋大学・水圏科学研究所)
連絡先

〒060 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学理学部地球物理
播磨屋敏生